



# News Letter 2015 No.3

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第42号 発行 2016年2月17日

◇学会事務局: 杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平  
〒192-8508 八王子市宮下町 476 杏林大学外国語学部  
Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用)  
email: jimujsthe.org ◇学会 URL : http://jsthe.org  
◇編集・発行人: 野口洋平 (noguchi@ks.kyorin-u.ac.jp)

## 【2015年度全国大会のご案内 最終】

すでにご案内しているとおり、今年度の全国大会は、2016年2月27日(土)・28日(日)の日程で立教大学新座キャンパスにて実施します。テーマは「観光ホスピタリティ教育における高大接続～高校教育と大学教育の改革と接続、そして新テスト～」です。

初日の基調講演及び話題提供は、観光ホスピタリティ教育に限らず、高等学校と大学の接続の課題について、広く多くの方々のヒントになるものと存じます。お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願い致します。

1月にお届けしました出欠ハガキの返送がお済みでない方は、投函をお願い致します。

なお、初日の発表会場の分割に伴い、研究発表の開始時間を若干遅らせました。開始時間にご注意ください。

### 1. 大会概要

(1) 開催日 2016年2月27日(土)・28日(日)

(2) 開催地 立教大学 新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

メイン会場 8号館

(交通アクセスマップ)

<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/direction/>

(キャンパスマップ)

<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/campusmap/>

(3) プログラム概要

<1日目 2月27日(土)>

10:50～12:50 理事会 (8号館4階 N841教室)

12:50 受付開始 (8号館5階エレベーター前)

13:20～13:25 開会式 (N851教室)

13:30～14:35 研究・教育実践論文発表

第1会場 (N842教室)

- ・ 観光高等教育と「価値」の問題に関する考察  
—英語圏の研究を参照しつつ— 原一樹
- ・ 道の駅における地方創生インターンシップ  
プログラムの開発と実践成果について ～大学との  
連携による道の駅を舞台にした観光教育～  
篠原靖
- ・ 観光教育における課題解決型コンテストの活用に関  
する一考察 ～大学との連携による道の駅を舞  
台にした観光教育～ 村上雅巳

第2会場 (N843)

- ・ ホスピタリティをテーマとする若手社会人研究会  
～ホスピタリティ産業人材育成研究会を事例に～  
大島知典
- ・ 我が国のホテル業における人材マネジメントの問  
題点 橋本俊作
- ・ グローバル化する社会に対応する日本型観光教育  
モデルに関する考察 田中敦・宍戸学・市岡浩子・  
栗原美紀・郭玲玲

14:50～15:50 基調講演 (N851教室)

「高校教育と大学教育の改革と接続、そして新テスト」  
リクルート進学総研所長、

『カレッジマネジメント』編集長 小林浩氏

16:00～16:50 実践報告

「アサーティブプログラムとアサーティブ入試 ～「答  
え」は、目の前の学生から～」

追手門学院大学アサーティブオフィサー 志村知美氏

17:00～18:00 シンポジウム

話題提供・モデレーター: 小畑力人氏 (追手門学院大学  
社会学部長・教授/JSTHE 会長)

パネリスト: 村上和夫氏 (立教新座中学校・高等学校校  
長/JSTHE 前会長)、志村知美氏 (前掲)

18:10～20:00 懇親会 (学生食堂フォレスト2F)

<2日目 2月28日(日)>

9:15 受付開始 (8号館5階エレベーター前)

9:30～10:20 ワークショップ話題提供 (N851教室)

- ・ 「産学連携によるアクティブラーニングの推進～  
藤田観光(株)と川村学園女子大学の包括的連携  
を事例に～」報告者: 志賀敏男 (藤田観光株式会  
社)・丹治朋子 (川村学園女子大学)・石井悠 (同3  
年)・山形香生莉 (同2年)

- ・ 「社会人の学び直しのための観光ホスピタリティ  
教育」報告者: 宍戸学 (横浜商科大学)

10:30～12:00 ワークショップ分科会 (N841～843教室)

第1会場「観光ホスピタリティ教育における高大接続」

第2会場「産官学地連携によるアクティブラーニング」

第3会場「観光ホスピタリティ教育における社会人教育」

12:10～12:50 ワークショップ報告 (N851教室)

12:50～12:55 閉会式 (N851教室)

※ ワークショップに参加される方は、ワークショッ

ブ話題提供からご参加ください。

- ※ プログラム内容・時間・教室等は変更する場合がありますので、ご了承下さい。

## 2. 大会参加費

参加費：正会員 2,000 円、準会員・大学院生 1,000 円、  
一般 3,000 円、学部生無料

懇親会費：正会員・一般 4,000 円、学生 3,000 円

## 3. 大会事務局

川村学園女子大学観光文化学科 丹治朋子

TEL/FAX 03-6908-3822 (共同研究室)

電子メール:taikai@jsthe.org ※電子メールが確実です。

## 4. 大会実行委員会

委員長 橋本俊哉 (立教大学)

委員 宍戸学 (横浜商科大学)

鈴木涼太郎 (獨協大学)

館野和子 (東海大学)

丹治朋子 (川村学園女子大学)

野口洋平 (杏林大学)

藤田玲子 (東海大学)

古本泰之 (杏林大学)

峯俊智穂 (追手門学院大学)

## <全国大会実行委員会事務局>

川村学園女子大学観光文化学科内

日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会事務局

担当：丹治朋子

〒171-0031 豊島区目白 3-1-19

TEL&FAX 03-6908-3822 (共同研究室)

e-mail:taikai@jsthe.org ※電子メールが確実です。

## 5. その他

- (1) 学会員以外のご参加も歓迎します

学会の活動を広く周知し、観光ホスピタリティ教育の発展と会員拡大を目指すため、本大会では、学会員以外の皆様にもご参加いただけるよう、会員外に一部を無料、一部を有料で公開いたします。

いずれも事前申込が必要です。メールまたは FAX (書式自由) にて申し込みいただけます。周囲への告知をお願い申し上げます。

<一般向け無料公開プログラム>2/27 (土) 基調講演・実践報告・シンポジウム (なお、大会論文集は原則として配付いたしません)

<一般向け有料公開>すべてのプログラム (大会論文集付き)

大会参加費：一般 3,000 円/学生 1,000 円

懇親会費：一般 4,000 円/学生 3,000 円

お申し込みにあたり、1 ご所属、2 氏名、3 メールアド

レス、4 電話番号、5 参加を希望されるプログラム、6 大会論文集希望の有無を明記の上、全国大会事務局宛にメールまたは FAX にて送信してください。折り返し確認のご連絡をさせていただきます。

## 【理事会報告】

### <2015 年度 第 4 回定例理事会>

- (1) 日時：2016 年 1 月 9 日 (土) 13:00~15:00

(2) 場所：帝京平成大学中野キャンパス 12 階 1228 会議室

(3) 出席者：小畑会長、浅岡副会長、宍戸副会長、朝倉理事、海老澤理事、鈴木泰夫理事、鈴木涼太郎理事、丹治理事、安島監事、峯俊幹事 (委任状 8 通)

- (4) 議事

#### 1) 第 15 回全国大会企画

- 企画の進捗状況について、丹治理事より資料に基づき説明がありました。
- 全国大会案内を記載した会報第 2 号は、制作の遅れや事務局作業の遅れ等が重なり、12 月末の発送となりました。1 月 15 日頃には正式大会案内発送。
- 大会テーマについて、小畑会長から「新テスト」というキーワードを入れる提案が出されました。その他として、学生の補助スタッフには立教大学大学院生、学生観光連盟に依頼し、足りない分については鈴木理事に依頼することとなりました。
- 予算について、丹治理事より資料に基づいて説明がありました。
- 丹治理事より、「全国大会案内」にチラシは同封せず、別の方法 (例えばメールに雛形を添付送信) で集客を図ることが提案されました。小畑会長からは研究会紹介サイトへの登録と、大学行政管理学会や関西観光教育コンソーシアム等へ連絡するよう提案されました。宍戸副会長を通して JTB 総研へ依頼することも提案されました。今後、各理事等からの情報や提案をシェアしながら確認し、進めていくこととなりました。

#### 2) 2016 年度総会・講演会について

- 丹治理事より口頭にて説明がありました。開催日時については次年度学年暦が出る次回理事会にて決定予定です。
- テーマは現在募集中です。宍戸副会長より、産学官連携の方向で集約していくことが提案されました。
- 会場第一候補は跡見学園女子大学、茗荷谷キャンパスです。安島監事を通じて手配します。

#### 3) 編集委員会報告

- 浅岡編集委員長より資料に基づいて説明がありました。

- 機関誌第9号は1月末発行予定。現在ほとんど校了しています。ページ数は100ページを超える予定です。
  - 第10号の構成案として、総会と全国大会を1つずつ掲載します。投稿論文が少ないことや投稿の取り下げもあることから、招待論文の検討が必要です。
  - 国立情報学研究所への対応については前回報告した通りです。機関誌が一段落ついたら野口理事等と資料中の移行スケジュール(案)の形で進めていきます。
- 4) 広報委員会報告
- 海老澤理事より説明がありました。
  - 入会者を増やすためのアクションを起こします。
  - 学会賞をつくるよう提案されました。新事業検討WGと連携します。
- 5) 総務委員会報告
- 丹治理事より説明がありました。新しくなった学会ウェブサイトが随時更新可能であることが報告されました。
- 6) 倫理委員会報告
- 村上委員長からの伝言を丹治理事が口頭で報告しました。
  - 前回報告のとおり日本観光研究学会の動向を確認しながら進める予定です。5月末の日本観光研究学会総会で固まります。
  - 次回理事会で委員長より報告がある予定です。
- 7) 新規事業WG報告
- 宍戸副会長より資料に基づいて説明がありました。
  - 研究倫理規定の策定との連動、予算規模、応募の条件、研究助成審査委員会(仮称)の設立、助成後の義務と、今後の実施計画の案が示され、継続審議となりました。
  - 新規事業案のうち、学会賞はベストエデュケーター賞と優秀論文賞(いずれも仮称)の部門別に設けることが提案されました。基準や審査員の選出方法は今後検討します。
- 8) 研究会
- 2016年度も例年通り、5月と11月の理事会に併せて開催されることとなりました。
  - 5月研究会テーマ候補は「最先端の教育ツール」、講演者候補には内田洋行があたりました。
  - 11月研究会テーマ候補は「論文指導」となりました。
  - 論文指導に関する研究会は継続的に実施する必要があることなどが確認されました。
- 9) 入退会審査
- 審査の結果、次の入会と退会が認められました。(敬称略)
  - 入会

正会員：原一樹(神戸山手大学)、村上雅巳(跡見学園女子大学)、橋本俊作(琉球大学)、篠原靖(跡見学園女子大学)

準会員：和田雅子(大阪市立大学大学院)、

- 退会：井上晶子
  - 審査後の会員数：162名(正会員149名、準会員9名、特別会員1団体、名誉会員3名)
- 10) 役員改選について
- 会長から候補者選考委員会(役員改選の素案作成)の委員長として宍戸副会長が指名されました。
  - 来年度総会での役員改選に向けて委員会を組織し、原案を作成することとなりました。
- 11) その他
- 次回理事会は全国大会開催日(2月27日)の午前中とします。

(以上)

## 【機関誌編集委員会】

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第9号発行

2016年1月25日に第9号を発行いたしました。

教育実践報告の投稿者をはじめ、書評、全国大会・総会の報告などご執筆くださいました皆様に深く感謝申し上げます。引き続き、原稿執筆などお願いいたしました際には、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第10号  
＜投稿原稿募集のお知らせ＞

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育(英語名: Annals of Tourism & Hospitality Education)』の投稿原稿を募集いたします。観光ホスピタリティ分野の教育活動を行っている大学院、大学、短期大学、専門学校、高等学校はますます増加しております。会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや学術的な研究の成果をぜひ、本学会の機関誌でご発表ください。

会員の皆様からの投稿を編集委員会一同、心からお待ちいたしております。また、編集委員会から原稿執筆などをお願いした際には、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

- 第10号の原稿締切日：2016年4月30日(土)
- 原稿投稿先：投稿申込書1部と審査用原稿1部をPDFあるいはワードのファイルにて(PDFが望ましい)、本学会本部事務局(jimu@jsthe.org)にメールで送付。投稿申込書は本学会ホームページよ

りダウンロードください。

- なお、投稿規定、執筆要項、審査規定が2014年11月22日付けで変更となり、第9号から電子媒体での投稿となりました。ご確認くださいませようお願いいたします。

(以上)

## 【広報委員会】

このたび、学会公式フェイスブックページとTwitter(試験運用)アカウントが開設されました。ぜひ学会情報の共有や会員同士の交流にお役立てください。

また、左記SNSのアカウントをお持ちの方はぜひ「いいね!」、またはフォローをお願いします。

### ■フェイスブックページ:

<http://www.facebook.com/jsthe.org>

### ■Twitter アカウント:@JSTHEducators

(<http://twitter.com/JSTHEducators>)

## 【観光ホスピタリティ教育の動向】

法政大学女子高等学校「旅する人の観光学」の取り組み

法政大学女子高等学校は、「自由と進歩」の学風を掲げる法政大学の附属女子高等学校として、多くの卒業生を送り出してきました。2015年度よりSGH(スーパーグローバルハイスクール)に認定され、持続可能な社会の実現を担う人材育成のため、新たな学校作りに取り組んでいます。

本校は大学付属校であり、また2007年度より法政大学への推薦資格を保持したまま法政大学への受験が可能になったため、多様な選択肢から進路を選択することができるようになりました。生徒が能動的に進路を選択し大学での学びをより充実させるために、本校では「特別講座」とよばれる選択授業を設定し、生徒の考察力やプレゼンテーション能力を育成し、大学での活動につなげる内容を展開しています。その特別講座の一つとして高校3年生を対象に設定しているのが、「旅する人の観光学」です。

観光が大衆化した現代において、本校の生徒もまた様々な地域に出かけ、観光をしながらその地域について知る機会が増えてきています。観光学を授業に取り入れることで生徒の観光経験を学習活動に結びつけ、社会事象や研究活動への関心を高めることが、この講座設定のねらいです。

講座は大きく分けて①講義、②校外研究、③研究旅行、

④レポート作成によって構成されています。授業は毎週木曜日午後50分2コマが設定されています。講義はこの時間で行うほか、校外での活動は土曜日午後や授業が休みの期間などを活用します。

①の講義は、観光に関する一般的知識を伝達することを目的に実施しています。できれば班学習など生徒の活動を主体にスケジュールを組み立てたいのですが、ほとんどの生徒が観光学という学問に初めて触れるため、ある程度座学を通して視野を広げる必要があると考えています。また7月には研究旅行で実際に観光の現場に出かける機会があるため、1学期は現地で講義内容を検証できるものを中心に展開しています。

2学期には身近な地域のまちづくりの話題を中心に、生徒が自ら出かけて検証が可能なテーマを選んでいきます。

②の校外研究は、日帰りで実施される校外活動です。実際に現場を訪れることは観光を学ぶ上で欠かせないことであり、積極的に設定しています。例年では1学期に都内にある都道府県のアンテナショップ巡りを実施しています。複数のアンテナショップを比較することにより、各都道府県の地域性や観光政策の比較を行うことができます。



校外研究で京都のアンテナショップを訪れる(撮影:報告者)

また2学期には、講義内容の検証を目的にその都度訪問先を設定しており、2015年度は多摩川河口域において産業観光が活性化している状況を解説し、ヤマト運輸の物流施設を見学しました。

③の研究旅行は、毎年7月に実施しています。担当教員が準備した見学箇所を訪れるとともに、班行動を実施します。班ごとに「夏の京都を初めて訪れるカップル」「子育てを終えた主婦グループ」などの仮想の観光客を案内することを想定し、各班は旅行会社になったつもりでその客層に合ったコースを企画し、1学期最後の授業で行程のプレゼンテーションを実施します。生徒はこれまで自分が楽しむことを前提に旅行を企画してきましたが、他者を楽しませるコースを検討することは初めての経験であり、現地で検証を行うことで、これまで気付くことがなかった観光地に対する新たな視点を獲得することが

できます。検証結果は、9月の文化祭でポスター展示を行っています。

④のレポート作成は本講座の最重要課題として、1年間を通じて取り組んでいます。「法女観光新聞」という授業内新聞を毎回発行し、教員からは観光学の話題やレポート作成に向けたアドバイスを載せています。また生徒に毎回B6判のスペースをあてがい、共通テーマに基づく生徒の意見を掲載するほか、レポートの進捗状況などが行われます。

生徒は夏休み明けを目処に仮テーマ作成と章立ての提出を行い、教員からは章立てをもとに調査内容の検討や文献選択などのアドバイスを行います。2学期中にレポートを書き進め、最後の授業にてレポート内容の報告会を実施しています。



文化祭でのポスター展示の様子（撮影：報告者）

本校にて観光学を教育に取り入れる最大の効果は、レポート作成指導において発揮されると考えています。レポート作成指導は生徒の論理的思考力を高める効果がありますが、しかし中には面倒な作業と受け止める生徒も一定数います。そこで観光をもとにテーマ設定を行うと、生徒は自分にとって単なる楽しみであった観光が、実は様々な社会の事象につながっているということに気づき、楽しみながら研究対象にアプローチしていくようです。この経験が、生徒が自らの学びをより深めようとする意欲につながると考えています。

「旅する人の観光学」は2004年度に初めて開講されました。昨年度は30名弱の生徒が受講し、また2016年度も開講が決まっています。これまで取り組んできた校外での学習とレポート作成を土台とした授業構成を進めるとともに、今後は昨今の観光の動向や、教育現場における最新の議論内容などをふまえ、改善を進めていきたいと考えています。

（情報提供：法政大学女子高等学校 高嶋竜平）

## 【編集人より】

ニューズレターでは、会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

ご協力をお願いします。

編集・発行人 野口洋平 (杏林大学)

E-Mail : [noguchi@ks.kyorin-u.ac.jp](mailto:noguchi@ks.kyorin-u.ac.jp)

FAX : 042-691-8617 (大学共用)

